

11/22

Fri

個人型 伊藤あおい（塩尻西小学校）

共同研究者 山浦貞一
（信州大学 教職大学院 特任教授）

自分事として深く考え、 考えを更新していく過程を楽しむ道德

自分事として深く考えていく道德、考えを更新していく過程を楽しむ道德を追究するために、ここまでいくつかの授業工夫を試してみました。

子どもたちが、深く考えられるように、一人の時間も大切にすること、発言ではない方法で友だちの意見に触れられる工夫、子どもたちが考えたいことに集中できるような発問をすることなどです。

発問・共有方法の工夫は子どもたちにとっていい面もありましたが、研究のテーマ解決に向けた糸口は少なかったです。

また、8月6日（火）には、共同研究者である山浦先生の研究室にて、研究のもとになっている私の思い、今後の研究の方針について大野校長先生と三人で話をさせていただきました。

このような取組の中で分かってきたことは、「問題意識を持てる題材」「形成的評価の重要性」の二点です。

一点目の問題意識を持てる題材に関しては、「教師自身も悩むような内容」にすることができていませんでした。一般的な「正解」が見えてしまえば、子どもたちもそれを表現するに決まっています。大人である私も「どうしよう!？」と頭を悩ませる題材であることは子どもたち自身が自分事として考えるための第一歩ということに気づきました。しかし、そんなに条件のいい題材を見つけるのは難しいです。題材選択のコツはこれから追究していきたいと思います。

二点目、形成的評価の重要性です。子どもたちは、一人一人必要としている情報・支援が違うはずで、教師が子どもの追究をとらえ、リフレクションの必要性やタイミングを判断しながら、児童の納得解を導いていくことが重要であることに気づきました。現在、どの授業でも適切な形成的評価を行うよう心がけていますが、そのために必要なことについては、まだまだ研究が足りません。これからも追究していきたいと思います。

11月22日（金）当日の授業では、「取り扱った題材」「形成的評価の仕方」の二点に着目して、参観していただけたらと思います。また、先生方のご意見もたくさんいただけると嬉しいです。



共同研究者 山浦先生から

誰よりも問題意識（問い）を追究したい、誰よりも道德について語りたい教師の存在が伊藤学級にはあります。授業者が視野を広げ、子どもたちが考えようとするテーマを追究し、自分の納得解を見出していく息づかいが聞こえる授業づくりに私も伴走します。



～日程～

- ① 開会式・授業説明 13:30～13:50
- ② 授業公開 14:00～14:45
- ③ 授業について語り合う会 15:00～15:30
- ④ ミニ講演会 15:30～16:40
- ⑤ 閉会式 16:45～16:50